学校だより

令和５年８月３１日

９月号

学校教育目標
～生き生き日枝っ子～

横浜市立日枝小学校

「学校はきっかけ」

校　長　加藤 智敏

暑い夏休みでした。20年近く前も今年と同じような気温上昇、熱波を味わったことを思い出します。その時は、日本だけでなく、訪れたスペインでは、マドリッドで38℃、南部のセビージャでは48℃と経験したことのない暑さでした。フランス等でも多くの方が暑さのために亡くなられたり、他国でも大きな山火事があったりしたことを覚えています。その時同様、今年は世界的な気温上昇が見られた夏であったように思います。

子どもたちはどのような夏休みを過ごしたのでしょうか。７月20日の朝会で、タイトルにある「学校はきっかけ」という話をしました。４月からの学習の中で、自分で追究したこと、仲間とともに意見を交わしながら学んだことをきっかけに、夏休み中も学び続けてほしいことを伝えました。生活面でも同様に、学校で身につけたあいさつや規則正しい生活習慣などを継続してほしいことを話しました。子どもたちは学校で得たきっかけをどのように活かしてくれたでしょうか。ぜひ、子どもたちからも聞いてみたいです。

コロナ禍の制限が緩和された今年の夏は、学校でも日枝っ子友の会のこーでぃねーたーの皆様が中心になって、７月22日に「夏休みイベント」が開催されました（その時の様子については他ページにも記載）。水鉄砲を用いたサバイバルゲームや的当てなど、子どもたちは大喜びでした。こーでぃねーたーの皆様、ボランティアとしてお手伝いいただいた皆様、本当にありがとうございました。各町内会の縁日にも参加することがありました。運営のお手伝いをしている子どもがいたり、地域の方に囲まれ、家族や友達と笑顔で楽しんだりしている姿を見ることができ、子どもたちは本当に地域の皆様に愛され、支えられているのだなと感じました。あらためて人々が集うことのよさを実感できた夏休みでした。９月にも多くの子どもたちが参加する地域行事が多数あるかと思います。子どもたちにも参加を促し、顔と顔が見える関係性をつくれるようにしたいです。

夏休み最後の土曜日に何人かの先生たちと、新潟県の南魚沼に米農家の方の取材に出かけました。社会科の教科書にも出ている農家の方ですが、取材すると教科書にはないお話を色々としてくださいました。特に南魚沼での米作りにかける情熱、パッションというのでしょうか、なぜその人がそのようなことに取り組むのかという、その人の根幹に関わること、熱い想いや真意の一端にふれることができ、子どもたちとの授業で活かすことができればと思いました。他にも夏休みの間に、埼玉県まで二度も出かけてウサギを譲り受けてきた先生や９月の地域行事に参加しようと町内会の方にお願いをしていた先生、また、子どもたちの発表の場を求めて地域の民生委員の方と交渉している先生、専門家に子どもたちの取組の様子を話し、講師として招聘しようと連絡している先生、けん玉の検定を受けてきた先生もいました。子どもたちとのこれからの授業に向けて本気になって取り組む先生たちの姿、人との関わりを先生自身が楽しんでいるを姿を見ることができ嬉しく思いました。先生たちはきっと子どもたちに学びのきっかけを与えてくれると思っています。

「学校できっかけ、家庭で定着、地域で活用」私にいつも話してくれた校長先生がいました。今も自分の学校経営に根ざす言葉です。その言葉を胸に、子どもたちにも保護者の皆様にも、また、地域の方々にも改めてご協力を願いたいと思います。夏休みが明け、子どもたちの学びも本格化していきます。地域の方や専門家の方に外部講師として来ていただく学級や他機関と連携して問題解決を図っていく学級、また、行政や町内会の方々と一緒に活動する学級もあります。地域の中に調査活動に行く児童や地域の方々に取材する児童も数多くいることと思います。ぜひ、子どもたちとの協働とともに、子どもたちの豊かな学び、より質の高い学びに向けたお力添えをお願いいたします。